たけのうち通信

令和2年9月 Vol.65

Takenouchi News 公明党

発行責任者：竹野内 猛
〒236-0052 横浜市金沢区富岡西3-38-1-101
TEL：080-9804-9782　FAX：045-345-4345
E-mail：info@takenouchi-takeshi.com

略歴　昭和49年生まれ。大分県出身。45歳。横浜市金沢区在住。妻と2女の4人家族。平成9年、創価大学法学部卒業。平成15年、米国·ワイオミング大学大学院　公共政策学　修士課程修了。大手物流会社を経て、平成27年4月、横浜市会議員に初当選、現在2期目。公明党神奈川県本部企業団体局次長、学生局次長、金沢支部支部長。

コロナ禍を乗り切る支援を、切れ目なく

第3次補正予算への要望を提出

7月22日、公明党横浜市議団としてコロナ対策の第3次補正予算の編成を求める要望書を市長へ提出。感染症への対応を踏まえた防災減災対策の強化、検査体制の強化と宿泊療養所の確実な確保、文化芸術活動を支える団体·施設への支援、体育館へのエアコン設置の加速含めた学校予算の更なる拡充など、ウィズコロナの新たな日常の構築へ長期戦も見据えた体制構築を提案しています。

公明党五大市政策研究会を開催

7月30日、毎年この時期に開催する横浜·名古屋·京都·大阪·神戸の五大市公明党議員団による政策研究会。今年は「コロナ対策」をテーマに各都市の施策、取組み、課題を巡って意見交換を実施。8月13日に、五大市として取りまとめた要望書を国へ提出しました。

国への要望（概要）

- 大都市税源の強化及び地方交付税の確保
- 医療·介護·障害福祉サービス事業所等への支援
- 災害対策への予算措置
- 雇用対策

ほか全7分野19項目

働く皆さまを支援

会社から休業手当を受けていない方に給付金

コロナの影響で出勤日や勤務時間が減ったにも関わらず休業手当（賃金）を受けられなかった方に、正社員·パートに関わらず、休業で受けられなかった賃金の8割が支給されます。

詳しくはこちら▶

▲新型コロナウイルス感染症対応休業支援金·給付金（休業補償給付）

医療機関、介護·障害福祉施設の従事者に慰労金

コロナ感染症が発生した施設、または濃厚接触者に対応した施設に勤務する職員に20万円、それ以外の施設に勤務する職員に5万円の慰労金が支給されます。

詳しくはこちら▶

▲医療機関　▲介護施設　▲障害福祉施設

▲市民の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症関連
横浜市
支援メニュー

▲事業者の皆様へ

GIGAスクール構想の推進へ

8月7日、公明党横浜市議団で文科省と連携して構想の設計·準備を手掛けるトランスコスモス社担当者を迎えての勉強会を開催。全小中学生に1人1台のパソコン·タブレット端末を配布する計画が、コロナによる学校休業への対応から大幅に前倒しされ、来年度からの全面展開となりました。

リモート教育にとどまらず、これまでの画一的な教育から生徒一人一人に最適化された学びの保証に道を開くものであり、大きな可能性を秘めた構想です。横浜市でも多面的な活用を検討します。

コロナウイルス感染症を踏まえた防災対策

台風シーズンの到来

昨年9月は金沢区内でも3日に発生した集中豪雨、9日未明に横浜に最接近した台風15号による強風、がけ崩れ、浸水などによる家屋への被害に加え、高波による沿岸部護岸の破損で470社を超える事業所への浸水など、甚大な被害を受けました。風水害は年々激甚化しており、早めの備えが肝心です。

- **浸水が心配されるお宅や店舗の方は、土木事務所で配布する土のうをご活用下さい。**
- **庭やベランダを整理して、飛ばされやすいものは撤去。物置などの固定も確認。**
- **自宅の周辺にどんなリスクがあるか、ハザードマップで事前にチェック。**

各種ハザードマップ
横浜市
防災の地図

大地震の脅威も切迫

金沢区内のリスク

東日本大震災における金沢区内の震度は4でしたが、建物外壁等の破損、エレベーター内への閉じ込め、漏水・断水、停電に加え、柴町や福浦の一部では液状化被害も発生しました。

今後想定されている大地震では、区内全域で**震度5強～6強**、沿岸埋立地や水路・河川に沿った地域で**液状化**の危険が高く、**崖地や盛土の崩落**の恐れもあります。さらに震源によっては沿岸部で**最大で3～4メートルの津波**も想定されています。

地震直後の火災にも注意が必要ですが、最も多いのが停電復旧後の**「通電火災」**で、震災による火災原因の約7割を占めます。

在宅避難も有力な選択肢です

地域防災拠点などにおいても、消毒液やマスクの備蓄に加え、間仕切りや段ボールベッドの設置、避難スペースの増設など、感染症対策を強化していますが、**自宅で居住の継続ができる状況であれば、在宅避難をしましょう。**避難者が密集する避難所では感染症の危険も高く、環境の変化などによって体調を崩す人もいます。食料や水など必要なものを日頃から備え、可能な限り在宅避難できる準備を整えておくことが大切です。

自宅内の危険を減らしましょう

近年の地震による負傷者の30～50%は、家具類の転倒・落下・移動が原因です。部屋に物を置かないことが最大の防御。次に下敷きにならないように家具類を配置する。その上で器具による家具類の転倒・落下・移動防止対策を行えば、ケガのリスクを低くすることができます。

食料品・生活必需品の蓄えを

ひとたび大規模な地震が起これば、電気・ガス・水道などのライフライン被害や物資提供の停滞が想定されます。自宅の倒壊などを免れた多くの市民は、発災後も自宅にとどまって当面生活することが想定されますので日頃から自宅で生活する上で必要な物を備えておくことが重要です。

災害情報をチェック
横浜市
防災情報

たけのうち猛
オフィシャルサイト
takenouchi-takeshi.com

https://www.facebook.com/takenouchit/
https://twitter.com/takenouchi_t

QR で LINE
お友達登録